

令和5年度 校内研究計画

1 研究主題

子供の「面白い！」を引き出す授業

2 主題設定の理由

(1) 昨年度の課題から

昨年度の校内研究「子供の「面白い！」を引き出す授業」では、特定の教科・領域の学習に限定せず、子供の「面白い！」を引き出すための指導方法について研究することができた。「自ら学びに向かう」という、子供の主体性を高めるため、①自己決定の場の保障、②学び合いの場の保障、③学んだことを活用する場の設定、の3つの視点をもって研究に取り組んできた。

成果としては、「振り返りの場を保障したことで、その時間に学んだことが整理され、次の学習の課題につなげることができた」「学び合いの場の保障をしたことで、子供が視野を広げたり、考えを深めたりすることができた」ということが挙げられる。

一方、

- ・自分の考えをもてず、自己決定できない子供もいる。自己決定まで至らない子供にどうアプローチしたらよいか、指導法を研究していく必要がある。(視点①)
- ・自力解決の時間が長いと自分の中で完結してしまい、話し合う必要感が生まれない。自力解決の時間は短く、活動の途中であっても良い。疑問もみんなでも共有することで話し合う必要感が生まれるはずである。(視点②)
- ・教科の系統性を理解することや教科横断的な視点をもったうえで、学んだことをどのように活用させたらよいかを検討していく必要がある。(視点③)

ということが課題として残った。

これらの課題を追究していく必要がある。

(2) めざす学校像とのかかわり

本校では、「夢と思いやりの心もち、チャレンジする田原っ子」を目標に掲げ、「かしこい子」「明るい子」「たくましい子」の育成を目指している。「かしこい子」で目指す「①よく考え表現する子、②自ら学び続ける子、③仲間と学び合う子」を育成するためには、自ら課題を見つけ、積極的に学ぼうとする姿や学んだことを生かそうとする姿、仲間と協働して考えを生み出す姿が大切である。

本校が今年度めざす学校像は「夢につながる学校」である。将来のために、学校で学ぶ意味や必要性をもって学ぶことは、主体的に学ぶことにつながる。学ぶ面白さを感じて学習に取り組むことは、めざす学校像の実現につながるものである。

(3) 子供の実態から

本校の子供は、学習に前向きに取り組んでいる。ドリル学習やプリント学習などの与えられた学習(反復学習)に対して意欲的に取り組む子供が多い。それにより、計算や漢字の基礎的な知識や技能については定着してきている。また、少人数なので、一人一人が活躍できる機会に恵まれている。一方で、「自分の言葉で表現することが苦手、自信がない」「一部の子供の意見だけで学習が進みがち」「今ま

で身に付けた知識・技能を活かして解くことが苦手」「個々の発表だけにとどまってしまい、話し合いに深まりがみられない」などの実態がある。

これらのことから、今年度は引き続き「子供の『面白い！』を引き出す授業」を主題として、研究に取り組むこととする。

3 研究の目的

○各教科・領域の学習において、子供の「面白い！」を引き出すための指導方法を探る。

4 めざす子供の姿

本校では「面白い」と感じている子供の姿を3ページの図のように設定した。

5 研究の視点について

視点① 問いの工夫

昨年度は、「自己決定の場の保障」を視点としたが、「自分の考えをもてず、自己決定できない子供もいる」という課題が残った。子供の実態からも「自分の言葉で表現することが苦手、自信がない」という課題が挙げられた。自己決定まで至らない子供や自分の言葉で表現することに抵抗がある子供にどうアプローチしたらよいか考え、「問いの工夫」という視点を設定することとした。問いを工夫することにより、自分の考えを表現するきっかけとしたり、考えを深めたりすることができるようにする。

例えば、自分の考えがもてない、自信がないという子供には「できそう」「わかるかも」と思わせる発問をする、「本当にそうなの？」という思考を揺さぶるような切り返しの発問をする、などという手立てが考えられる。

視点② 学び合いの場の工夫

昨年度は、「学び合いの場の保障」を視点としたが、場を保障したものの、友達の意見を踏まえて考えたり意見を述べたりすることは、難しかった。ただ、学び合いの場を保障するだけでは、思考に広がりや深まりがみられるまでには至らなかった。子供の実態からも、「一部の子供の意見だけで学習が進みがち」「個々の発表だけにとどまってしまい、話し合いに深まりがみられない」という課題がみられた。子供たちの必要感に応じて設定できるような指導の工夫が必要である。

例えば、学習形態を変える（人数を変える、ペア、小グループ）、話型の提示、意見交換の進め方の提示、意図的なグループ編成（同質、異質）などという手立てが考えられる。

6 研究の方法

- ・子供が、「面白い！」を感じて学習している姿を【めざす子供の姿】をよりどころとして見取る。
- ・研究授業（年3回）を行い、手立ての有効性について検証する。
- ・外部講師を招いたり先行研究を参考にしたりして、手立ての有効性について論理的に学ぶ。



【主な参考文献】

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』，東京：東洋館出版社，2018 年
- 2) 第 127 回中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第 228 号）」2021 年